

氏名	辻 晃 仁		
授与した学位	博 士		
専攻分野の名称	医 学		
学位授与番号	博 甲 第 1298 号		
学位授与の日付	平成 6 年 9 月 30 日		
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（二）専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）		
学位論文題目	連日抗原吸入による実験的慢性喘息におけるeicosanoidsの役割 に関する研究		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 中山 睿一	教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

成人の慢性喘息病態，特に気道過敏性獲得の機序を解明する目的で，まずモルモットに作成した喘息モデルに連日抗原吸入を行い慢性喘息動物モデルを作成し，その際の気道過敏性の変化と，その経過におけるBALF中の細胞分画，血中及びBALF中のeicosanoidsを検討した。連日抗原吸入の経過にて，気道過敏性が経時的に亢進する群と，ある時点以降改善する群が認められた。気道過敏性亢進群は，改善群や対照群に比し好酸球，好中球の有意な増加が認められた。またリンパ球も同様な傾向にあった。血中TXB2濃度は，他の2群に比し亢進群が有意に高値を示したが，改善群と対照群との間に有意差は認められなかった。血中及びBALF中のLTB4は，亢進群が他の2群に比し有意に高値を示した。また血中LTC4，LTD4も同様の傾向にあった。以上より，気道過敏性は，好酸球，好中球，リンパ球等の各種炎症細胞が織りなす細胞反応型アレルギーによって産生されるeicosanoidsの気道収縮並びに細胞遊走因子が複雑に絡み合って形成され，気管支喘息の重症化，難治化の重要な要因となっているものと推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は成人の慢性喘息病態，特に気道過敏性獲得の機序を解明する目的で，まずモルモットに作成した喘息モデルに連日抗原吸入を行い慢性喘息動物モデルを作成し，その際の気道過敏性の変化と，その経過におけるBALF中の細胞分画，血中及びBALF中のeico-

sanoidsを検討したものである。その結果気道過敏性は、好酸球、好中球、リンパ球等の各種炎症細胞が織りなす細胞反応型アレルギーによって産生されるeicosanoidsの気道収縮並びに細胞遊走因子が複雑に絡み合って形成されることを明らかにした。これは価値ある業績であり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。